

## 『一宙空のまなざし— 大岡亜紀作品展』に寄せて

わたし達が生きるこの世界には、ありとあらゆるものが存在しています。目に見えるもの、見えないもの、それらすべてを知り尽くすことは誰にもできないでしょう。そこには地球を彩る自然があり、生きものの様々な営みが交錯しています。目や耳を通して心に入り込んでくるものは枚挙にいとまがありません。

一方でわたしは、地球のありとあらゆるものを知り、見つめている「まなざし」があるように感じることがあります。宙空に浮かび、世界のはじまりからずっと地球を見つめてきた「まなざし」です。道を示したり行いを咎めたりはしません。善も悪も判断せず、花のように光のように、ただ見つめているだけです。

それは、ある人にとっては「神」と呼ぶものかもしれません。また、ある人にとっては、古来から言い伝えられてきたこととして守っている、しきたりや祈りかもしれません。いずれにせよ、その「まなざし」に気づいた時わたし達は、自分の心と静かな対話を始めるのでしょうか。そして、そこにまったく同じ「まなざし」を見つけるかもしれません。

この空間でひととき、「まなざし」との対話を味わっていただければ幸いです。

平成31年4月 大岡亜紀